

私たちに身近な著作権法について学びませんか？

< 放送大学教養学部 BSラジオ (531ch.) 科目 >

著作権法 ('22)



豊かな社会の基盤を形成する創造活動を振興していく上で、知的財産権に関する法制度が重要な役割を果たしており、その中において、小説や論文、美術、デザイン、音楽、映画、写真、アニメ、プログラムなどの創作的表現物の保護と公正な利用の促進を目的とする著作権法は、幅広く人々の職業及び日常生活に関わっている。この講義では、比較的短期間で法制度の全体像が把握できるよう、具体的事例を踏まえつつ、著作権制度の基本的事項及び今日の実際的な課題について解説する。

※授業内容の詳細は裏面をご覧ください

担当講師：作花 文雄（放送大学客員教授）

専攻：知的財産法

1981年京都大学法学部卒業。1983年文部省（現・文部科学省）に入省。

2001年7月から内閣法制局参事官、2010年7月から生涯学習政策局生涯学習総括官、2011年9月から科学技術・学術政策局科学技術・学術総括官及び原子力損害賠償紛争解決センター次長、2012年8月から文化庁審議官（併）内閣審議官（命：知的財産戦略推進本部事務局次長）などを経て、2019年6月から放送大学教育振興会常務理事を務める。また、放送大学客員教授（2002年4月～現在）及びコピーライト編集委員長（1998年10月～現在）を務める。

放送大学では興味のある1科目から学び始めることができます。
在学生の方向けに、授業のインターネット配信も行っています。



資料請求・出願は
こちらから

www.ouj.ac.jp



お問い合わせ

TEL：043-276-5111（総合受付）

月～金：9時15分～17時30分

土：9時15分～13時、14時～17時30分

日曜、祝日、年末年始（12/29～1/3）を除く

パソコン・スマホで
1回分の授業をお試し
視聴できます



各回のテーマと授業内容

※授業全15回の音声を在学生向けにインターネットで配信。
どの回からでも何回でも聴取できます。

回	テーマ	内容	キーワード
1	著作権制度の基本的仕組み	知的財産権制度における著作権法の役割を解説するとともに、保護対象や権利主体、権利の内容、権利制限など、第2回以降の講義の導入として、制度全体の仕組みを概観する。また、著作権制度の現代までの発展の歴史を考察する。	知的財産権、無方式主義、相対的独占性、依拠性、登録制度、属地的性質、著作権制度の発展の歴史
2	保護対象物（その1）	保護対象となる著作物の要件や、アイデア等の非表現物との区別、創作性とありふれた表現の問題などについて解説するとともに、様々な分野の著作物の特徴について解説する。	創作的表現物、アイデア、ありふれた表現、オリジナリティ、著作物の種類、二次的著作物、編集著作物
3	保護対象物（その2）	著作隣接権の保護対象物について解説するとともに、応用美術・産業デザインに対する著作権法の適用問題、キャラクターの保護問題、肖像権・パブリシティ権の保護問題などについて解説する。	実演、レコード、放送・有線放送、応用美術、意匠法、キャラクター、肖像権、パブリシティ権
4	権利の主体（創作者等）	著作物の創作者である著作者や共同著作者について解説するとともに、職務著作（法人著作）の要件や課題について解説する。また、実演家等の著作隣接権者や出版権者について解説する。さらに、AI創作物に関する権利帰属問題の動向について解説する。	著作者、創作者、共同著作、職務著作、法人著作、映画の著作者、著作隣接権者、出版権者、AI創作物
5	著作権制度における権利構成（その1）	第5回～第7回では著作権法で付与される権利内容を解説する。第5回では公表権、同一性保持権などの著作者人格権、並びに著作権を構成する支分権のうち複製権及び演奏、公衆送信など著作物の公衆への提示に関する権利について解説する。	公衆、著作者人格権、複製権、一時的複製、上演権・演奏権、上映権、公衆送信権、送信可能化、口述権
6	著作権制度における権利構成（その2）	著作権を構成する支分権のうち展示権、貸与権など複製物等を介する著作物の利用に関する権利や、パロディ問題も含め翻案権等の著作物の二次的な利用に係る権利について解説するとともに、実演家、レコード製作者、放送事業者等の著作隣接権について解説する。	展示権、頒布権、譲渡権、貸与権、消尽、翻案権、パロディ、著作隣接権、二次使用料、サンプリング
7	著作権制度における権利構成（その3）	書籍又は電子書籍に係る出版権の内容について解説する。また、権利者の利益をより適切に確保するための著作権等の侵害みなし規定について、類型ごとに解説する。	出版権、侵害みなし行為、侵害複製物輸入、リーチサイト、リンク、アクセスコントロール、権利管理情報
8	権利の制限と公正利用（その1）	第8回～第10回では、権利制限規定及び著作権等の保護期間について解説する。第8回では、制限規定のうち、私的使用目的の複製や付随対象著作物の利用、図書館等における利用、引用などについて解説する。	私的使用、補償金制度、付随対象著作物、検討の過程、技術開発、情報解析、図書館、資料のデジタル化、引用
9	権利の制限と公正利用（その2）	制限規定のうち、学校教育に関わる諸利用、障害者による著作物の利用機会の充実、非営利目的の上演等、司法・行政機関等に関わる諸利用、美術作品等に関する諸利用などについて解説する。	教育、障害、点字、非営利目的の上演等、時事問題、裁判手続、立法行政目的の利用、美術作品
10	権利の制限と公正利用（その3）	制限規定のうち、キャッシュ、情報検索、情報解析などコンピュータを巡る著作物の諸利用について解説する。また、戦時加算問題も含め、著作権の保護期間について解説する。	プログラム、キャッシュ、記録媒体内蔵機器、情報検索、情報解析、軽微利用、保護期間、戦時加算
11	著作物等の利用・権利侵害に対する救済等	著作物等の利用に係るライセンス契約の締結や著作権等の譲渡に伴う諸課題、権利者不明等の場合の裁定制度、権利管理団体の役割などについて解説する。また、権利侵害に係る民事的救済や刑事的制裁について解説する。	利用契約、出版権設定契約、譲渡、著作権管理団体、裁定制度、差止、損害賠償、不当利得、刑事的制裁、親告罪
12	著作権等の国際的保護	著作物等は国境を越えて利用され、著作権及び著作隣接権に関して多様な条約が整備されている。これらの諸条約の概要について解説するとともに、通商政策の観点から著作権等に関連する国際的規律の形成に係る現代的な特徴について解説する。	ベルヌ条約、WCT、実演家等保護条約、レコード保護条約、WPPT、北京条約、TRIPs協定、TPP協定、通商政策
13	情報のデジタル化・ネットワーク化を巡る諸課題（その1）	第13回～第15回では、デジタル化等により生じている現代的諸課題を考察しており、第13回では権利侵害に対する多様な関与者と侵害行為主体性、技術の進展に伴う私的利用と業的利用の境界領域の秩序形成、国境を越える著作物の流通と適用法について解説する。	間接的侵害関与、自炊代行業、放送番組録画・配信サービス、国境を越える著作物の流通、国際私法
14	情報のデジタル化・ネットワーク化を巡る諸課題（その2）	著作物（複製物・デジタルコピー）の流通と著作権制度上の課題、権利侵害情報に係るプロバイダの法的責任や責任制限、投稿サイトやP2Pシステムなどのコンテンツ共有システムを巡る法的責任などについて解説する。	並行輸入、国際消尽、デジタル・コピー、ISP、サーバーホスティング、サイトブロック、P2Pファイル交換
15	情報のデジタル化・ネットワーク化を巡る諸課題（その3）	ハイパーリンクに係る法的問題、マスメディア化を巡る著作権制度の課題、技術革新と法制度の技術的中立性、イノベーションと法制度の調和などについて解説する。	ハイパーリンク、リツイート、マスメディア化、Orphan Works、拡大集中許諾、技術的中立性、フェアユース